

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M211N207	内科系疾病論Ⅱ (Internal Medicine II)	専門基礎科目 健康科学

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	2	後	月・5 その他	正木孝幸・柴田洋孝・平松和史・小宮幸作・正木孝幸 内線： E-mail：

【授業の概要・到達目標】

患者が抱える内科系の症候と疾病、特に感染症、腎、内分泌・代謝、免疫・アレルギー、遺伝について、病因・病態の理解を深め、臨床の場で実際に行われている診断法や治療法について学習する。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 内科疾患の基本的な症候がなぜ起こるのかを理解し、説明できる。	○			○	○		
2. 主な内科疾患の病因・病態と検査、診断および鑑別疾患を理解し、説明できる。	○			○	○		
3. 主な内科疾患の治療の概略と要点を説明できる。	○			○	○		

【授業の内容】

1	感染症（1）微生物と免疫応答・診断法と抗菌薬療法
2	感染症（2）敗血症・日和見感染症
3	感染症（3）耐性菌感染症・感染制御
4	腎（1）症候と検査
5	腎（2）原発性・続発性腎疾患
6	腎（3）腎不全・透析
7	内分泌・代謝（1）視床下部・下垂体
8	内分泌・代謝（2）甲状腺・副腎
9	内分泌・代謝（3）糖尿病の診断と病態
10	内分泌・代謝（4）糖尿病の治療・肥満・高尿酸血症
11	免疫・アレルギー（1）免疫
12	免疫・アレルギー（2）アレルギー
13	免疫・アレルギー（3）リウマチ・膠原病
14	遺伝（1）遺伝のしくみ・メンデル遺伝
15	遺伝（2）多因子遺伝・遺伝カウンセリング

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認	○	学習記録で振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 各回の授業で学んだ事やその意義を考える時間を設ける。 学んだ知識を応用する訓練を通じて、使える知識とする。
B：意見の表現・交換	○	講義中に意見を求める。	
C：応用志向	○	事例を入れて鑑別診断を考えさせる。	
D：知識の活用・創造			

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	次回の学習内容について予習する。(8h)
事後学修	前回の授業で学習した内容を復習する。(8h)

【教科書】 系統看護学講座 成人看護学[6]内分泌・代謝、[8]腎・泌尿器、[11]アレルギー・膠原病・感染症 医学書院

【参考書】 「病気が見える」 vol. 3 糖尿病・代謝・内分泌、vol. 6 免疫・膠原病・感染症 メディックメディア

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3
期末試験	100%	○	○	○

【注意事項】 Moodle に授業資料が掲示された場合は必ずコピーをして授業に臨むこと。

【備考】 附属病院の臨床の第一線で活躍されている医師が講師となります。

担当教員の実務経験の有無	<input type="radio"/>	
教員の実務経験	医師（病院）	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	<input type="radio"/>	
教員以外の指導に関わる実務経験者	医師（病院）	
実務経験をいかした教育内容	病院の内科医師として患者の病態や疾病への理解による疾病論の知識を教授し、内科疾患の診断や治療法についての学習を支援する。	
授業形態		